

強くなりたい

新野中学校 三年 家城 博幸

やしろ ひろゆき
(敬称略)

僕は強くなりたい。

差別だと感じて、「差別だ。」と言えない自分はかなり弱いのだと思います。

僕の母は料理上手です。そしてとても優しいです。僕は未だに母に叱られたことはありません。いつも笑って、学校のこと、友達のこと、何でも話を聞いてくれる優しい母です。でも言葉が少しわからないときがあります。そんなときは父と僕がゆっくりと母に教えます。母は、フィリピン人です。僕には、とても明るく優しい、大切な母なのですが、母は「フィリピン人だから」と差別されたことがあります。僕は不快に思いながらも、何も言えなかったことが、今でも悔やまれてなりません。

「フィリピン人だから」、なぜ差別されるのでしょうか。自分たちとは生まれた場所が違うから？話す言葉が違うから？そんな理由で相手を排除するというのは違うと思います。それならば、すべての人が同じ場所で生まれ、同じ言葉を話し、同じ考え方をしなければなりません。ありえないことです。違っていいから発見があるし、発見があるから感動するし、楽しいのです。違いは決して人を差別したり苦しめたりするものではないはずです。

「差別」と聞くと、もうひとつ、僕は自分の体のことを考えてしまいました。僕の体は、「アトピー性皮膚炎」によってところどころ赤く変な傷ができてしまっています。僕はそれによって体全体が真っ赤になったり、シヤワーをするたびに痛みをとまったりと、苦しい時期が続いたことがあります。でも、僕が最も苦しく辛いのは、皮膚の痛みではなく、アトピーによって差別された心の痛みです。

小学生の時、運動会で友達に言われた言葉、
「アトピーがうつるかも。」

今も僕の心にずっとしがみついて離れない言葉です。

高校に進学することは、僕の希望ですが、それ以上にこのことで差別されるのではと思うと、とても怖いのです。今、このことをみんなの前で声に出すのも怖いのです。僕が最も触れてほしくないことなのですが、みんながじっと見ているような気がして、恐ろしくてたまりません。

でも、僕のクラスではそんな不安はまったくありません。僕のことを理解してくれています。僕の体のことを気にせず、普通に友達として接してくれる周囲の人に心からありがとうと思っています。お互いに信頼しているから、僕は安心していられます。僕は周りの友達から勇気をもたらしたのだと思います。こうやって自分の気持ちを素直に言葉に出せたのは周りの友達が僕を理解してくれているからです。お互いに気持ちを伝え合っていることが大切なのだと思いました。

先日他校の中学生とZoomで平和の大切さについて話し合いました。今地球上ではたくさんさんの命が戦争や紛争、子どもの人権侵害で奪われています。どんな場面でも、世界の人々が考えなければいけないこと、私たちにできること、それは話し合うこと、理解し合うまで話し合うこと、そう僕は学びました。

現代の僕たちは、さまざま悩みと闘っています。でもそれは、誤解をされたり、差別をされたりするべきものなのでしょうか。あなたは、自分とは違うから、理解できないからという理由で誰かに排除されたり、差別されたりしても許せますか。差別とは理不尽で、絶対にあってはならない許せないものです。

僕は高校で、知らない人たちの中に入っていくのが不安でした。でも、怖がっているだけでは、逃げているだけでは何も解決しません。自分が変わらなければ、自分が勇気をもたなければ……。自分からコミュニケーションをとること。それが強くなることだと僕は気づきました。母のために、自分のために、そして周りの人のために、自分から自分のことを知ってもらおう、母のことを一人の人として知ってもらおう、僕も相手のことを理解しよう、それが強くなることなのですね。まだまだ弱い僕は、周りの人と理解しあいながら、一緒に強くなるうと思っています。